

<校訓> 高志共生	大庄中通信	大庄中学校 H26 年度第7号 (H26. 6. 3・火)
---------------------------	-------	-------------------------------------

3年実力テスト(6/9・月)まで あと6日

体育大会が終わりました。3年生は、来週の月曜日(6/9)に、実力テストがあります。

今回の実力テストは、市内全中学校共通問題、統一日で行われます。範囲は、1・2年生で学習した内容のすべてです。「そんなテスト、勉強のしようがあらへん」という声が聞こえてきそうですが、そうではないはずです。たとえ範囲が広くても、また、テストまでの準備期間が短くても、勉強したことは必ずどこかで役に立ちます。3年生の人達が目標とする入試のテストは来年の2月から3月ですが、そこに向けた勉強の絶好のチャンスと考えて、今回の実力テストまでの6日間を、短期間ですが、有意義に使ってくださることを願っています。

実力テストまでの勉強法

実力テストは、確かに範囲が広いですから、各教科の全ての範囲を総復習するのは、かなりの時間がかかります。入試のテストに向けた受験勉強も同じです。そして、何ヶ月かの期間をかけて勉強しているうちに、最初の方で勉強したことを忘れてしまった…ということもよくあることです。そこで、実力テストや入試のような範囲の広～い勉強に取り組むときに気をつけるべき事をまとめてみました。

(1)勉強はできない(わからない)ことをできる(わかる)ようにすること

まず最初に、実力テストだけでなく、ふだんの勉強にも共通することですが、勉強の意義・目的を確認しておきます。定期テストでも実力テストでも、授業中の小テストでも、勉強はわかること(できること)を増やすためにやっているのです。ですから、すでに覚えていることや解ける問題に取り組むことに時間をかけるのは、効果的な勉強法とは言えません。

もちろん、「数学なんか将来何の役にも立てへん。日常生活に必要な計算ができればそれで十分やん」とか「自分は将来も英語なんか使うことないから、英語を勉強する理由がない」…などというように思っている人はいっぱいいるかもしれません。今日は、そのことは置いて、狭い意味になりますが、主にテストで有効に得点を取るための方法を考えてみます。

(2)苦手分野や過去のテストで間違えたところ(できなかったところ)だけを勉強してみる

準備期間が少ない時は、思い切って自分の苦手分野だけに絞って勉強するのがお勧めです。短期間でたくさんの内容の勉強はできません。1つでも2つでも「できること」を増やす勉強に取り組みましょう。

過去のテストの解答用紙を見て、自分の苦手な分野を見つけることが有効です。1年生の1学期の期末テストから2年生の3学期の学年末テストまで、校内の定期テストが8回、実力テストや課題テストが8回か9回あったはずですが、例えば、今年の2月には「尼崎市学習到達度調査」がありました。数学の1番には、計算問題が8問出題されました。正の数・負の数、文字式、1次方程式、連立方程式、比例式、等式…などが出題されています。2番



にも、連立方程式の問題が2問、計算問題の配点は各3点。計算問題だけで30点です。以下、図形の問題が3問、証明問題が2問、関数(比例・反比例)の問題が2問、確率や資料の活用の問題が2問…こんな問題構成になっていました。今回の実力テストも、2年生までの範囲ですから、同じような問題構成になるでしょう。

あまず、これまでのテストで自分のできないところを把握し、それができるように勉強をしてみましょう。できなかった(間違えた)問題を解けるように勉強する中で、教科書の説明や例題をじっくりと読んだり、教科書や学校で使っているワークやプリントの問題に取り組むということも必要となります。

数学を例に説明しましたが、他の教科でも同じ要領で勉強をすれば、以前のテストより各教科で何点かのアップが可能になるはずです。数学と同じ積み上げ教科の英語は、1年生の時の内容を理解できなければ2年・3年の内容が理解できないことがあります。1・2年の教科書やワークに載っている問題をできるかできないか確認しながら取り組み、自分が理解できていない内容や覚えていない内容を把握し、できなかった問題ができるように勉強することが大切です。

(3)書き写すだけの問題演習は時間のムダ

これまでにできていないワークやプリントの問題に取り組むわけですが、こんな人はいないでしょうか？

- ・教科書や解答を見ながらワークを解いている(これでは「解く」とはいえませんが)
- ・問題を1回やってあとは何もしない

この方法で、「できなかったところ」が「できるようになる」でしょうか？教科書や解答を見てワークをするのは、答えを書き写しているのと同じですから、以前のテストで「できなかった」ところが「できる」ようにはならないでしょう。当たり前のことですが、テストでは、教科書も解答も見ないで、自分の頭の中にある自分が理解した知識を使って解答を書く必要があります。それまではできなかった問題、前に間違えた問題を自分の手でできるようにするのはじめて「勉強した」効果が出るのです。



(4)暗記は「タイミング」を考える

テストのに向けた準備には「暗記」も必要となりますが、「暗記」には覚えるタイミングや繰り返しの期間を考えることが大切です。

心理学者のエビングハウスによる有名な「忘却曲線」という研究報告があります。この研究によりますと、人間の脳は、記憶したことを20分後には42%忘れ、1時間後には56%忘れ、1日経つと74%を忘れ、1週間後には77%を忘れ、1ヶ月後には79%を忘れる、ということです。これは、単純な意味のない言葉の記憶を実験したものですから、教科書に出てくるような単語や用語・公式などを意識して覚えようとする場合には、少し違う結果になるかもしれません。しかし、この研究は、①学校で習った翌日に復習すること②土・日に1週間分の学習を再確認すること③何週間か前の学習内容をテスト勉強で復習する、という3回のくり返し学習の効果と必要性を教えてください。暗記の方法は、個人差がありますし、得意不得意もあります。しかし、必要なタイミングに覚え直すことが重要だということを知った上で、効果のあるテスト勉強に取り組むのと、やみくもに暗記に取り組むのでは、同じ時間をかけても効果が全然違ってくるということを知って、勉強してほしいと思います。

テスト前には、いろいろな事を工夫しながら「できることを増やす」勉強やテストに必要なことを「テストの時間に覚えている」ための勉強が必要です。短い時間だからやっても仕方がないのではなく、短い時間しかないからこそ、確実に得点に結びつくような勉強に集中的に取り組むことが大切です。(文責:校長 福井 隆夫)